9-2 ファイルを操作するには?

次のようにプロシージャを入力します。
※VBEを起動し、《挿入》→《標準モジュール》をクリックします。

■「ファイルコピー削除」プロシージャ

```
1.Sub ファイルコピー削除()
```

- 2. Dim MyFSO As New FileSystemObject
- 3. Dim filename As String
- 4. Dim filename2 As String
- 5. filename = ThisWorkbook.Path & "¥9-2Practice.txt"
- 6. filename2 = ThisWorkbook.Path & "¥9-2Practice2.txt"
- 7. If MyFSO.FileExists(filename2) Then
- 8. MyFSO.DeleteFile FileSpec:=filename2
- 9. MsgBox "「" & filename2 & "」を削除しました"
- 10. Else
- 11. MyFSO.CopyFile Source:=filename, Destination:=filename2
- 12. MsgBox "「" & filename2 & "」を作成しました"
- 13. End If
- 14. Set MyFSO = Nothing
- 15. End Sub

■プロシージャの意味

- 1.「ファイルコピー削除」プロシージャ開始
- FileSystemObject型のオブジェクト変数「MyFSO」を使用することを宣言してインスタンスを 生成
- 3. 文字列型の変数「filename」を使用することを宣言
- 4. 文字列型の変数「filename2」を使用することを宣言
- 5. 変数「filename」に実行中のプロシージャが記述されたブックが保存されているフォルダーの絶対パスと「¥9-2Practice.txt」を連結して代入
- 6. 変数「filename2」に実行中のプロシージャが記述されたブックが保存されているフォルダーの絶 対パスと「¥9-2Practice2.txt」を連結して代入
- 7. 変数「filename2」のファイルが存在する場合は
- 8. 変数「filename2」のファイルを削除
- 9. 変数「filename2」と他の文字列を連結してメッセージを表示
- 10. それ以外の場合は
- 11. 変数「filename」のファイルを変数「filename2」の場所とファイル名でコピー
- 12. 変数「filename2」と他の文字列を連結してメッセージを表示
- 13. Ifステートメント終了
- 14. オブジェクト変数「MyFSO」の初期化
- 15. プロシージャ終了

※コンパイルを実行し、上書き保存しておきましょう。 ※プロシージャの動作を確認します。